

2017 6/13

No.2044

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



相模川や早川など県内の主要河川で1日、アユ釣りが解禁され、厚木、海老名の市境を流れる相模川では、早朝から「初物」を狙い長い釣りざおを抱えた人たちの姿が見られた。アユ漁は10月14日まで。



| | |
|---|----|
| 視点・点描 | |
| 戦中戦後の公文書を読む | 3 |
| 講演録 | |
| 韓国新政権誕生 日韓関係、半島情勢は？ コリア・レポート編集長 辺 真一 | 4 |
| 国際 | |
| 安倍政権との関係改善に本腰 中国が計算するメリット | 8 |
| 政治 | |
| 「保守政治」の何が期待されるのか 生活ファーストを対抗軸に | 10 |
| 国際 | |
| トランプ氏に揺れるメキシコ 様子見の日系自動車産業 | 12 |
| 企業最前線 | |
| 「アスレジャー」に熱視線 東京五輪控え国内でも広がり | 14 |
| くらし2017 | |
| 医療者からの副作用報告増やそう | 16 |
| 広告珍談 | |
| 広告はたのしい④ まわれ、まわれ | 18 |
| NNAアジア経済レポート | 19 |

事務局だより

◇7月定例講演会
2017年7月19日(水)
午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラの間」
講師は日本銀行横浜支店長の
播本慶子さん
演題は「最近の金融経済情勢
について」

視点 点描



戦中戦後の公文書を読む

「新憲法の精神を更に一段と県

民の各層に透徹せしめ且日常生活に之を具現せしめる必要を痛感するところから」と、仰々しい物言いの文書は、津久井地方事務所長から各町村長あての「新憲法普及講演と映画の夕開催について」日付は憲法施行から2ヵ月後の昭和22年7月20日、手書きでおそろくガリ版刷りの黄ばみきつた用紙

が、時代を感じさせる。

青野原村（現・相模原市緑区）の「庶務書類」と題する書類つづりの中の一節。相模原市立公文書館で開催中の企画展「公文書から見る戦中から戦後への変化（暮らし・制度）」で展示されている。定められた手続きにのっとり事務作業が進む、いわゆるお役所仕事の集積が公文書—というイ

メージを持っていたが、今回の展示は時代のせいも題材のせいも、楽しく読めるものが多い。

「隣組回覧 今度の総選挙について」と横書きタイトル（だけど右から読む！）のある大判の紙は、「日本再興の此の選挙 敗戦のどん底から新しい民主主義的日本を建設しようとする歴史的総選挙は近く断行される。われらに與へられたこの一票こそ真に重かつたなる責任を持つことは今迄の比ではない」と始まる（昭和21年、串川村「選挙書類」から）。1946年4月10日実施、大日本帝国憲法下で行われた最後の総選挙で、女性が投票も立候補もできる最初の選挙だった。

ず 明朗な 正しい 投票を致しませう」と続く。実際に回覧したものの原本だったようで、「投票の日時と場所」の投票所欄は空白になっている。ちなみに活字が使われ、文章は縦書きだ。

この選挙で選ばれた議員によって、現在の日本国憲法はその草案が審議され、修正を加えられ、制定・公布・施行に至る。

他にも庶民の暮らしと直結した「米穀配給書類」「酒類配給書」「砂糖菓子配給書類」や、庶務書類のつづりには「主要食糧を繞る關防止徹底事項に関する件」、学事書類のつづりには「国民学校の経費に関する件」「六三制実施費財源について」の文書が。激動の時代、時に高揚しながらも粛々と進む行政の仕事ぶりが面白い。同展は入場無料。7月30日まで。

（神奈川新聞社相模原・県央総局長 青木 幸恵）

まわれ、まわれ

横浜に大きな大きな、時計がある。

もちろん地上でも見えるが、横浜港を出航するフネから見るともとりつぱ。それも、夕刻に出港する客船がよろしい。出帆祝いのシャンパンを手に眺めるとますます、すばらしい。

高さ107.5メートルの巨大な時計が建設されたのは1989(平成元)年。横浜開港130年と、横浜市政100年記念に開催された《横浜博覧会》のとき。その目玉が「コスモクロック21」。クロックというからには、時計である。中心から何色ものヒカリの輪が、つきからつきへとひろがっていく。でっかい輪つぱに60本の秒針？があり、先端に8人乗りのハコが60台。いちどに480人が乗れる、

日本最大の回転展望台であった。現在はどうか知らないけど。

回転展望台は映画《第3の男》に登場した。せつないチャター(Zither)の音色とともに、オーソン・ウェールズとジョセフ・コントンがハコに乗って、上空へまわっていく。いまも現存する(と思う)その展望台は1873年、ウィーンで開催された万国博覧会のモニュメントであった。

図は1907(明治40)年、東京

上野で開催された勸業博覧会の新聞広告。「池ノ端空中廻転車高さ約八十尺」、ヒトが乗るハコがついた回転展望台のイラストがある。

午前8時から夜11時まで、乗車料は自分のあいだ大人10銭、軍人と子どもは5銭。開業祝いのため、5日間は5銭均一。「百六十尺の大車輪は夜毎紅白のイルミ子一シオン、点火のまま回転す。時々点滅する未曾有の奇観、夜景展望の美観無比」。4人乗りのハコが14台、蒸気エンジンで運転された。イラストの横には、高さ約80尺(24メートル)とあるのに160尺ともいう。倍もちがうが、どつ

ちがほんとうだろう。

「自分のあいだ」とか、この手のあいまいさはひんばんにあった。

もうひとつ回転するのは飛行塔。十文字に突きでた腕木から吊られた飛行機が、回転しながら上昇する。千里山や愛宕山、生駒山など関西に多く、幼いころ、ボクが乗ったのは宝塚遊園地だった。

回転展望台も飛行塔も、博覧会と深い関係がある。それはそうでしょう。あんな大きなモノ、よほどの予算がないと造れない。《横浜博覧会》の企画委員であったボクは、もつとでっかいものを、「ヨコハマ宇宙衛星」を打ち上げましょうと発言したら、みな失笑をうけた。

もし、採用されていたら、いまも宇宙を飛んでるはずなのにMOTAINAI、アイデアだったな。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(図) 東京勸業博覧会に設置された回転展望台の新聞広告。1907

(明治40)年5月掲出

午前八時開演 夜十一時閉演
乗車料 當分の内 大人 金十銭
小兒 金五銭
開業祝の爲 五錢均一
廿二日五日間 百六十尺の大車輪は毎夜紅白のイルミ子一シオン
点火のまま廻轉す
時々點滅未曾有の奇観
夜景展望の美観無比

The Observation Wheel.



(例) 西麻袋三場會二第